

# 茨城町名誉町民に 故小川菊松氏が選ばれました

## 町の発展に大きな助力

町では、町にゆかりのある、社会の発展に著しい功績があった方に対し、その功績と栄誉をたたえ、茨城町名誉町民の称号を贈り、顕彰しています。このたび、出版業を通じて町の教育振興などに寄与されたとして、故小川菊松氏を名誉町民とすることが、令和3年第1回議会定例会での同意を受け、決定されました。2月11日に開催を予定しております茨城町民の日記念式典において、茨城町名誉町民称号贈呈式を執り行います。



小川 菊松氏（誠文堂新光社創業者）

小川菊松氏は、町出身の実業家で、出版社(株)誠文堂新光社の創業者として知られています。明治から昭和にかけて出版業を通してさまざまな文化、科学・技術などを振興し、令和4年は没後60年、(株)誠文堂新光社の創業110周年にあたります。氏は創業当初、随筆やマナー本など実用的な書物の出版を取り扱っていましたが、関東大震災を経て、技術や知識の重要性を痛感し、多くの人々の技術習得に役立つような出版に力を入れたとされています。

特に、「子供の科学」や「農耕と園芸（戦前は実際園芸）」、「無線と実験」などの雑誌は多くの読者を得ることとなり、科学・技術の伝播の礎となるとともに、現在も発行が続く無二の情報誌となっています。

また、第二次世界大戦終結後、1か月という短期間で出版した『日米会話手帳（科学教材社名義）』は、約3か月間で360万部超という驚異的な部数売り上げ、戦後初のベストセラーとなるなど、出版史に残る偉業を成し遂げました。



茨城町立図書館（ゆうゆう館内）の  
小川菊松記念コーナー

町出身のご縁のもと、町は、(株)誠文堂新光社より町庁舎建設（平成2年完成）の際に庭園を、ゆうゆう館建設の際には小川菊松生誕100周年を記念し、1億5千万円の寄付を頂いております。

町立図書館内部には、貴重な「子供の科学」の1巻1号や『日米会話手帳』も所蔵する小川菊松記念コーナーが設けられており、平成8年にゆうゆう館がオープンしてから現在に至るまで、毎月20冊程の書物が寄贈され、多くの町民の方へ貸し出されていることから、町の発展に対する功績がたたえられました。

## 小川菊松氏 略歴

明治21年	3月25日	茨城町奥谷（旧川根村）にて、小川菊太郎氏の次男として誕生
明治35年	2月	親友と上京、日本橋大洋堂書店に入店
明治37年	2月	取次業の至誠堂書店に入店、以後9年間奉公し、出版の基礎を培う
明治45年	6月1日	誠文堂創業、神田錦町に店舗を構え、書籍取次仲買業を営む
大正2年	9月	書籍仲買業のかたわら、処女出版として『わがま』等を発行
大正12年	9月	関東大震災で店舗焼失、直ちに『実地踏査 大震災火の東京』を発行
大正13年		「無線と実験」、「子供の科学」創刊
大正15年		「実際園芸（現「農耕と園芸」）」創刊
昭和10年		新光社を吸収合併、(株)誠文堂新光社に社名を改め、社長に就任する
昭和20年	8月	第二次世界大戦終結
昭和20年	9月	『日米会話手帳』を発行（科学教材社名義、360万部超を売り上げ「戦後初のベストセラー」となる）
昭和37年	6月1日	誠文堂新光社が創立50周年を迎える
昭和37年	7月3日	牛込薬王寺の自宅で急逝（享年76歳）



寄贈された書籍・雑誌



町庁舎建設時に寄贈された庭園

## これまでの 茨城町名誉町民受章者

- 概要（受章日）
- 故 雨谷 俊夫 氏  
元茨城町長  
(平成7年2月11日)
  - 故 萩津 正夫 氏  
元茨城町長  
(平成7年2月11日)
  - 故 皆川 弘次 氏  
元茨城町長  
(平成7年2月11日)
  - 郡司 和幸 氏  
元茨城町長  
(平成18年2月11日)
  - 富山 英明 氏  
ロサンゼルスオリンピック  
金メダリスト(レスリング)  
(平成18年2月11日)

## 茨城町民の日記念式典の開催について

本来であれば町民の皆さまを広くお招きし、名誉町民称号の贈呈を盛大にお祝いするところではあります。新型コロナウイルス感染症対策として、開催時間およびプログラムを短縮し、会場収容人数を制限することから、表彰受賞者・関係者の方のみの招待を予定しています。ご理解とご協力の程、よろしく願います。

## 【問合せ先】秘書広聴課

029（240）7126（直通）